

大志を育む



平成 28 年 4 月 20 日

(教職員向け)
教育委員会だより
No. 1

発行：北広島市教育委員会

【発行にあたって】

今年度より、市内各小中学校の教職員向けに教育委員会だより「大志を育む」を発行していくことになりました。このたよりは、国や道の教育情勢や、本市の学校教育推進に関わる情報、市内各小中学校の特色ある取組等を紹介することで、先生方の教育活動を進める上でのヒントにしてもらうことを目的に始めるものです。

充実した「たより」にしていきたいと思いますので、ご活用いただけますようお願いいたします。

「北広島の子どもたちのため」に、
私たちが今年度ががんばること

本年度の実践目標

9年間の確かな学びを支える教育活動を創造しよう！

これからの未来を担う子どもたちが、取り巻く環境の激しい変化に対応する力を身につけるためには、小学校だけ、中学校だけという視点では十分とは言えません。小中学校9年間を見通して、学校、家庭、地域が協働し、連携・一貫した教育を推進することが極めて重要になります。

そのために、各学校では、児童生徒や地域の実態に応じた中学校区での教育課程の編成を一層進め、小中の連続性を意識した教科指導や行事など、教育活動の指導計画を立案し、実施していきます。

学校における実践への具体的な手立てを9つ示しています。

■教育課程■ 9年間を見通した指導計画の立案・作成

それぞれの中学校区において、児童生徒の特徴や家庭・地域の実態を把握した中で、小中学校9年間を見通した指導計画を立案・作成します。

Point まずは、今あるものを小中が協働して見直し、共通した学習内容を整理したり、児童生徒の課題となる学習を重点的に学ばせるカリキュラムづくりを行うなど、着実に取組を進めます。小中合同でできる活動や地域行事への参加などについても、積極的に工夫改善を図っていきます。そして、中学校区ごとの特色ある教育活動の充実につなげていきます。

■授業改善■ 課題提示とまとめや振り返りによる授業展開

授業のはじめには、何を学ぶのかを児童生徒に示し、終わりには、1時間のまとめや振り返りをするよう一貫した授業展開を工夫します。

Point 目標の提示と振り返りは、児童生徒が学習の見通しを持って授業に参加することができ、結果として「何を学んだか」を実感できる、主体的な学びにつながる学習活動になります。児童生徒がノートを見直したときに、学習課題と過程、まとめが書かれており、授業の振り返りができる、そんな授業を小中協働してつくり上げていきます。

■道徳教育■ 考え議論する道徳授業の実践と積み上げ

教科化への移行を踏まえて、児童生徒が「考え議論する道徳の授業」の実践を行い、その積み上げを行います。

Point これまで積み上げてきた実践を活かしながら、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方や他者との関わりについて「考え議論する」道徳学習を推進します。改訂された「私たちの道徳」の内容確認を行い、組織的に指導計画を整理していきます。

■特別支援■ 児童生徒の教育的ニーズに応じたきめ細かな教育支援の実施

児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、学習上、生活上の困難を克服するための、一層きめ細かな教育支援を組織的に行います。

Point 特別支援学級に在籍する児童生徒、通常学級に在籍する特別な支援を必要とする児童生徒一人一人の教育的ニーズを、全教職員で把握することが大切です。小中学校の引継ぎを充実させながら、学校全体で、児童生徒理解と教育的ニーズを踏まえた指導と支援を工夫し、わかりやすい授業づくりや、誰もが居心地のよい学級・学校づくりに取り組みます。

■ICT活用■ ICT等を活用した授業実践と改善

学校の教室には、様々なICT機器が整備されています。今以上に、ICTを活用した授業を展開し、意欲化や学習内容の定着につなげます。

Point 学習指導でのICT活用は、指導方法や指導体制を工夫改善して取り組むことで、学習意欲高揚やわかる授業づくり等大きな教育効果が期待できます。ICT活用に長けている先生の授業を参観するなど校内研修を充実させ、意図を持った積極的な活用に努めます。

■キャリア教育■ キャリア教育の推進と「きたひろ夢ノート」の実践検証

本市では、「きたひろ夢ノート」を使ったキャリア教育を開始しましたが、初年度の実践を踏まえて、各学校でキャリア教育を推進し、「夢ノート」の一層の実践の工夫と検証を行います。

Point 昨年度1年間の実践交流の場を設け、効果的な活用場面、他の教育活動との関連づけなどアイデアを出し合いながら、年間指導計画の作成につなげます。小中学校のつなぎや教育相談での活用、家庭との連携などについても研究を深め、キャリア教育の実践に活かします。

■生徒指導■ 中学校区でのスタンダードの策定と実践

各中学校区では、「スタンダード」いわゆる児童生徒の実態や地域の特性を踏まえた「育てたい力」を策定しているところです。その策定と実現に向けた実践に取り組みます。

Point 中学校区の児童生徒の実態を把握した中で、育てたい力を再確認し、小中協働で「スタンダード」を確立します。児童生徒が各中学校区の「スタンダード」を意識して生活していくよう、特別活動や授業の中で、繰り返し考えさせる指導をすることが大切です。PTAや健連協、生涯学習振興会等と連携を図りながら、家庭・地域への普及啓発にも努めていきます。

■連携■ 家庭、地域と連携を図った学習・生活習慣の確立

児童生徒の望ましい学習習慣や生活習慣の確立には、学校だけの取組では十分ではありません。学校、家庭、地域が手を取り合って、児童生徒の学習・生活習慣の確立を進めます。

Point 小中学校で共通した「望ましい学習習慣や生活習慣のあり方」について、明確に示していくことが大切になります。小から中学校までの発達段階ごとのめざす子ども像を「手引き」などで紹介し、家庭・地域への普及啓発に努めます。子どもの電子メディアへの接触時間を見直す取組（どさん子アウトメディアプロジェクト）等についても家庭・地域と一体となって進めます。

■資質向上■ 中学校区での授業交流と合同研修の実施

小中一貫教育の推進のためには、教師の授業力、指導力の向上が大変重要です。中学校区で、小中学校の授業を参観しあったり、研修を合同で行ったりすることで、義務教育9年間で系統的・継続的に指導するための資質能力の向上に努めます。

Point まずは先生方が、日常的に交流する機会を増やして、子どものことを話題にして、何でも気軽に話すことができるようになることが大切です。互いの学校の参観日を利用して授業を参観したり、校内研修を合同で実施（長期休業の活用も考えられる）するなど、できることから始めることです。小中学校の先生方が合同研修を通して、子どものために何ができるかを模索していくことから発展させていくことが大事になります。

これら9つの項目の実現に向けて、小中学校が同じ目標を共有しながら教育活動を展開します。